



藤
流
糸
一

武
原
拾
三
巻
四
冊

遠 13
924
1



門入通18
1924
1-4

約泰先生著



杜撰

慢心

泥管帚

全四册



女怪ハなれどおれん。冠冠の派
 風也逢てん心。狼明て管帚を
 ころころの煙を拂んとおれん
 固心や山豆一物と惚れおれん
 お乃禅学ハ恰哉動の派

六ふおひそきけん
 六ふおひそきけん
 う川あり。げん
 第一のまらま。強
 第二のまらま。強
 第三のまらま。強
 第四のまらま。強
 第五のまらま。強
 第六のまらま。強
 第七のまらま。強
 第八のまらま。強
 第九のまらま。強
 第十のまらま。強



泥筆目次

卷之一

性太郎 魔道 小隆
 杜撰坊 是界坊 勤仕
 杜撰坊 是界坊 脱肛 と 瘰癧

卷之二

男非界坊 天竺 浄くんと 漆
 廬山 竹林寺 開帳
 李氏の 後 花見

卷之三

是界の冠者杜撰をあらわす
李杜撰を蘊生して無悪善國を
馳多國揚屋町の辰

卷之四

馳多の典系杜撰を吹雪
李杜撰者知識と河合
明德先生杜撰を故示



杜撰
心撰
泥筆目
一

性太郎魔道よ墜

天よりや降るん地よりや生るん性太郎
とつめ美少年わり固総明魔道よ
ふん氣を一通ド極氣ふん
えんぶとくありと性太郎ふんをうけり
女の救。三子三百三十三人なり。或ハ密死乃
女もわりと我。性もふんハ明鏡のこ

うらまきあそかげとそびやげ。生憎敏に
心も大なり。ある時秋書と書きたるふ

中々に時重なるる月をよめておんたうともかまじ

はしく面をたれおそく吾心如明月。はまらぬら

からぬ。朋友もむつーがりてようつとせし

墨をわらぬ。風家の男とておんものと。秋乃

みりともんづへ。一步の橋千歩里ふおそび。己が

病を減んと。都ふのぼり。言をた先せし

まじめ。法舞の場能ふとらぐ多お合。ある時朋

友も海も。同どく。翠考はあまふとかさ孫しより。

度らぐ橋なご。お登金とほくしと。東

あふん。誰ちるぬとあく。あまの女妓がうら

よして。性んはうらうら。あまの一向をうら

あまの笑をちやと。又都中おあまの母は

かす。お花は白ひ。あ風ふあまのた。何れ

松のうらぬだ。あまの。松うらおま



性さんぐ末しや。河の安ふ岩の柳も櫻お振と
おやうして。男り懐持減り傍。うつこやたふふ
著うけ。その危一角の著る産芥もおらひば。
きしも喜ぶ富のぬも。おれも喜ぶも。いままに
かいつまみの工面もあつた。親戚をたのむ。徳の
銀をりして。娘の片を遣ふ小借屋をかり。おの
肉けすと賣合ふせんと。飯ふ泥作と喜ぶ者。
流るる。折南の看板とや。いふも。おれも。いふの

いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
きよき。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
りを送る。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
上あり。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
天より。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
孝弟忠信。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
と。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。

いくぞ我を欺く人やそと飛去らるる。程なく付布
 と鼻あつけの魚の腸をつうんで飛くる。又子
 大に知れり。汝が妙術甚だしく耐えり。程なくは
 計策と予め志せやと。杜撰方とて此を
 名所多きとて。金ある事じつり。今生
 去の後を思ふ。もさうもすふれあはる。平阿
 寺に聞ふやうなる事。後にも後にも。佐
 仲とよみおぼやう。もさうもさうも。程なくは

精膠の患あり。おまをせむ入てつうまんと思
 へ。人らふ面とんせんも口惜り。付布と
 ころを鼻とまけて眼を眩し引つけたま
 ちあぐ。竿をさしりまけども。仲よとては
 ぐてせ。或はさうかのつうとて。おびき
 とら成中つう。ゆり。か。又子大
 かん。頭あを。無かり。杜撰方
 よう。つ。お。又子爪



